

園長だより NO50

ジレンマの感染症対応と

みんなの忍耐強さ

緊急事態宣言が発令、その後の感染者数は大幅に減少することはありません。先行きどうなるのか不安は募るばかり、市から登園自粛要請が出されてから保護者の皆様、事業主のご協力のもと登園児童数も減少し感染拡大のリスクも低減されてきました。

発令後、4月8日の登園児童数は73名、4月23日の登園児童数は30名 出席率は33パーセントです。市内の保育園に出席状況を聞いてみたところを概ね同じような数値になります。自粛から休園措置に移行した他市の状況はそれぞれ異なるものですが利用できる職種の制限から出席率はぐんと下がっています。

隣接の自治体で休園の措置が取られた中、鎌ヶ谷市のみ自粛の措置を継続しました。

今後、緊急事態宣言の延長や市内の感染者数の増加(23日現在 感染者9名)によっては休園措置にレベルが上げられる可能性は少なくありません。

現在、政府は29日以降に宣言延長の是非を判断すると報道されていますが大型連休に突入のタイミングでは行政側ははたして適正

な対応を示せるのであろうか、テレワーク、在宅勤務、事業所でも頭も悩ませ考えた勤務形態やその取り組みの基盤はあるが、準備期間も少ない中での宣言延長には、その混乱は多少なりにあるはずである。しかし、この数週間で蓄えたノウハウを効率よく使うことができる能力を持ち合わせているのは日本の国民性であると思う。

いずれにしてもいくつかの仮説を立て今後の企業経営や保育園運営を考えていかなければなりません。

昨今の園長だよりは肩がこる内容になっています。ただでさえ、文字だらけの便りに、加えて、こてこての文脈、読み手の皆様の苦労も考えていない(けして考えていないわけではありません。)数カ月の世の中の変化に、明るい話題が提供できないこと、心苦しいところではあります。

がしかし 申し訳ありません。話題をもどします。隣接の自治体が軒並み休園要請を出しましたが隣の松戸市も24日より市内保育施設を休園と致しました。

※職種によっては保育を受けております。

選択の難しさ

何よりも感染拡大防止が大前提であるわけですが保育園の運営継続の有無の選択はかな



り難しさに直面しています。緊急事態宣言が解除になる事を前提に休園措置を出していることを考えると延長になれば休園から登園自粛へダウンすることは考えられない。必然的に保育利用の制限はかけ続けられることになる。仮に鎌ヶ谷市が自粛要請から休園措置をとることも考えられる。宣言を延長することはより一層、感染防止対応にあたらなくてはならないことになる。

3密を避ける難しさ

保育に従事しているものであれば、保育現場での3密回避は困難極まりないことであり頭を抱えている。密閉空間 密集空間 密接空間この3つの「密」が重ならないようにする。

保育園の場合は3密に加え「密着」が加わり4密である。その4密を取り囲み支配しているのが 緊密です。緊密とは物と物とを隙間をつけることを意味しますが「緊張と緊迫」が緊密につきあわさり、保育士の精神的負担を大きくしています。

世の中は3密というが 保育園はそれ以上の密があり、その対応にもあたっている。各保育園では独自で様々な工夫がなされているが いざ、子ども達が登園し遊びだせば3密回避は崩れる。3密をきっちりと求めると子ども達の生活(行動)にかなりの制限をかけなければなりません。

多くの保育園では新型コロナウイルス感染症防止対策をとる以前から欠かさず、日々の

保育で健康管理(視診)、玩具、日常品の消毒を行っている。昨今は普段より増して気にかけて消毒している。その他にも子ども達への行動にも注意を払う、気持ちの高揚から子ども間での過剰な接触(密着)を抑える、否定的な言葉で注意することなく、子どもの心情に寄り添い尚且つ理解できる言葉をえらび丁寧に接している。仮に「そばに寄らないの」「離れなさい」などと言っては子どもの心情や行動を否定してしまう。

子どもなりのコミュニケーションが断絶されてしまうことは避けなければならない。



保育士の「緊張、緊迫」を子ども達の笑顔が和らいでくれる。

私たち大人は保育園の普段の日常を維持できるように今後も知恵を出しながら対応していくことが大切と考える。

かたい文面で読み疲れたことでしょう。次回は子どもの育ちをとりあげ、少しはほっとできる内容を掲載したいと思っています。

宣言の延長か解除か、この先の社会保障など心配の念は尽きませんがプラス思考で物事を考えるように心がけたいものです。

(園長 廣部 信隆)